

# やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	14 / 1968 / 16
タイトル	青森県理科研究発表会
著者名	神和利

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

# 青森県理科研究発表会

1年 神 和 利

〔生物部門〕

ケンミジンコの日周活動の原因について———教育長賞

ヒドラの再生———優秀賞

〔全部門〕

全部門総活最優秀賞———ケンミジンコの日周活動の原因について

このような輝かしい授賞の陰には、部員のひたすらな努力があつた。

10月13日(日曜日)、今日は待ちに待った研究発表会である。日曜日というのに生物第二実験室は、いつものように騒がしい?部屋に入ってみると、もう数人が来ていた。ある者は、模造紙に、またある者は原稿用紙に、なにか書きなぐっている。「なんだろうかな?」と思つて聞くとなんとそれは今日の発表会に使う資料だつた。僕はまた、遊びに使うものだろうとばかり思つていた。おかしい。なんとしてもおかしい。今日が、発表会なんだろう?「なぜ、昨日のうちに書いておかなかつたんだろう?」と思ひ、先輩に聞いてみると、先輩いわく、「これが生物部代々の伝統なんだよ。」と。なるほどと思ひ僕も先輩に手伝う。

はたから見ていると、らくに見えるが、自分でやつてみるとどうしてどうして、僕みたいな弱い男性にはこんな重労働なことはない。朝、7時30分前に家を出て来たからだろうか。どうも眠い、腹も減る。チクショ—。次はガリスリだ。指導課の向かい側にある印刷室でスル。どうも指導課というのは名前だけでも恐い。シンマシンが出そうだ。県立青森高校と、名は一流であるが、印刷機はまだ手動式というふるさである。おかげでこつちは墨じゆう顔だらけ。いやちがつた顔じゆう墨だらけである。何百枚くらい刷つただろうか。もういいかげん疲れて来たのでやめることにした。出来上がり品を持つていくと、樋口先輩は発表の時の準備で、緊張している。少しやせたみたいだなあ——。とは言わない。

どうにかこうにか、発表までは全部まにあいそうである。やつと暇になつたので卓球をやつて暇をつぶした。そうしているうちに、11時30分になつたので、会場へ行くことにした。会場では、〇〇高校が風呂屋の大腸菌の量とかを問題にして発表していた。ちよつとおもしろいので、しばらく聞いてみることにした。話の内容はこうだつた。その風呂屋では、7時頃において、男湯よりも女湯の方が大腸菌が多いのだそうだ。それで、女性は男性よりも不潔だという答えを出している。僕はもう少しで大声を出して笑い出すところであつた。なぜかつて?、そりや——。常識から考えりや、人が多くはいるから大腸菌が多くなるんだろう。それを女は不潔だなんて、僕はこの生物部にユーモアを感じるよ。

やつと午前部の部が終つた。腹が減つたのでサトゲンへそばを食べにいつた。学校へもどるともう午後の部が始まつていた。ヤツコさんが自信満々で、次から次へと言いまくつてゐる。やつと終つた。審査員の先生方は、質問を出せなくておろおろしているようだつた。次は樋口先輩。ヒドラの研究は、本格的に始めたのが、今年からだか、部員一同、おおいに自信をもつている。それを発表するのだ。度胸のいる仕事だ。質問も無事すぎた。あとは審査結果を待つだけだ。